看護共通技術	１年・前期	１単位	教授　及川 秀子 助教　松﨑 圭子　他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33110551

１．授業のねらい・概要

看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術の修得を目的とする。また，看護学概論での学びを踏まえ，看護提供者としての基本的な姿勢と態度について思考・実践の機会とする。

２．到達目標

１．安全・安楽の原則を理解し援助が実施できる。
２．科学的な根拠に基づいた援助が実施できる。
３．援助を受ける対象の身体的・心理的反応を共有し，看護の対象への理解を深める。
４．実施した援助を振り返り，看護提供者としての学びを深めることができる。
５．看護提供者としての身だしなみ・態度・言葉遣いについて考え，適切に実践することができる。

３．授業の進め方

学生 3～4 人でグループ編成し，交互に患者・看護者・観察者となって技術演習を実施する。実施した技術や患者体験についてグループ討議を行い，演習記録を作成する。適宜，学生による患者モデルやデモンストレーション，課題発表などの機会を設ける。

４．授業計画（演習）

１．ガイダンス（及川秀子） 　感染防止の基礎知識・標準予防策（松﨑圭子） ２．標準予防策の実際（松﨑） ３．リネン類の取り扱い（及川） ４．ベッドメーキング①（及川） ５．ベッドメーキング②（及川） ６．ユニフォームの着用/身だしなみ（及川.松﨑） 　実技試験オリエンテーション（及川） ７．シーツ交換（及川）	８．ベッド周りの環境整備（松﨑） ９．ベッド周りの環境測定（松﨑） 10．体位変換・ボディメカニクス（及川） 11．罨法（課題発表）（及川） 12．移乗（松﨑） 13．移送（松﨑） 14．実技試験（及川） 15．環境の調整（課題事例）（及川・松﨑）

５．成績評価の方法・基準

定期試験 70%，記録 20%，身だしなみ・態度 10%により総合的に評価する。

６．テキスト・参考文献

・有田清子他，系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
・吉田みつ子他，写真で分かる基礎看護技術　アドバンス　インターメディカ

７．準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

指定された範囲について最低 1 時間の予習および授業内容の復習を行う。また,実践可能な技術修得のため授業時間外で自主練習を行う。

８．受講上の留意事項

遠隔授業：課題提示型とし,事前に課題を提示する。授業の 1 回目に受講に関する資料を添付する。
対面授業：テキストを必ず持参する。

９．課題に対するフィードバックの方法

課題提出物は教員が内容をチェックして返却する。内容の不備なものは再提出を求めることがある。実技試験の結果内容については終了後に教員から口頭で各自に伝達する。筆記試験については実施の際に解答などを説明する。

10．卒業認定･学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合は進級不可となる。

11．実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。